

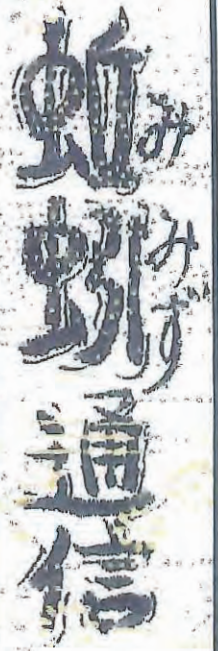
悩みを一挙解消？

庭の狭小部分や日陰部分を活かす



和瓦を用いて
変化をつけた延段

玄関から主庭へ続く細い路地や、隣家の塀のため日照が悪い、などの悪条件の庭だからとあきらめていませんか？
冬は、霜解けのぬかるみで庭に出たことがない。防犯用の砂利を敷いたが、センスの面でいま一つと悩みを抱えているとの声をよく耳にします。
でも、それは才能や環境のせいじゃない。



尚林庭園設計事務所
〒193-0823 東京都
八王子市横川町 1096-3
Tel:042-622-8840

VOL. 2



鉄平石乱貼りの延段
短冊石と瓦がポイント



ヒューケラ



ギボウシ

ちょっと視点を変えればおしゃれな庭はつくれるものです。
今回は、そんなデメリットをメリットに変えた庭の一部を切り取った空間にスポットを当てた、事例を紹介しましょう。
延段（石だたみ）や和瓦を使った和庭の手法を取り入れたためか、斑入りや日陰に強いカラーリーフの植栽で明るさを強調するなどの、小スペースの活用方法は、諦めてしまった、または諦めかけた、あなたの素敵な庭づくりへの再度の情熱に、多いに参考になるはずですよ。

花 花木入門 花 花
たとのことです。
モ子の木の仲間で「タラヨウ」の和名をもち、雌雄異株。葉は長楕円形で厚く、表面は光沢があり、裏面に、先の尖ったものでキズを付けると、あぶりだしのようにつやが浮き出てきます。別名をハガキの木といって、『葉』の字を使う語源となっています。だからでしょうか、寺院によく植えられます。筆者は駆込寺で有名な北鎌倉の門跡尼寺、東慶寺で赤い実を付けた木を見ました。女性の寺だけに、雌木だったのでしょかネ！



年賀など時候の挨拶によく『はがき』を使います。葉書ってなぜ『葉』の字を使うのでしょうか？紙が貴重な時代、寺の修行僧たちは、よくこの木の葉の裏に写経をしていました。



日陰でも育つ
カラーリーフ

天声樹語

畑で栽培した生姜が例年に比べ著しく大きく丸みがある。枯れかけた杉が元気を取り戻した等…。
だが、花を付けなくなった木が咲くようになった、の声はまだない。日本の美は「生どりの美」といわれる。生花や盆栽が然り、その究極が庭づくり。その庭への皆様の想いや努力が、「咲いた！」の声に変わる日が来るのを待ち遠しく楽しみにしています。是非、ご一報を……。編集後記にかえて。

『枯葉おち、山は達磨の、むこうむき』。すっかり葉を落とし褐色の山は、座禅を組んだ達磨の背中。
落葉による里山の自力再生力に惚れた、サイクルパウダー導入からほぼ2年、いろいろな報告が聞けるようになった。曰く、



葉の裏に「みみず」と書いてみました。